NEWS LETTER

2023.10.2
No.57

〒658-0016　神戸市東灘区本山中町４－１８－２２　TEL：078-453-5931
https://nihongohiroba.web.fc2.com/index.htm

発行：にほんごひろば岡本

「にほんごひろば岡本」皆さんの素敵な居場所！

代表　西村 佳子

連日耐え難い暑さが続いています。例年なら8月の夏休みが過ぎたら学習再開となりますが、今年はもう「にほんごひろば岡本」は開かれません。6月の総会で活動を停止、解散することに決定しました。

思えば1999年11月の立ち上げから私の生活の一部（否おそらく大部分）になっていた「にほんごひろば岡本」。

養成講座を修了して何らかの形で活動したいと考えていた時、同期の方からボランティアの誘いを受け、相談に行ったところ、（元）兵庫日本語ボランティアネットワークの長嶋昭親先生からグループの立ち上げを提案されました。今思えば本当に軽い気持ちで始めたのでした。

すでに活動されていた他団体の方々、神戸松蔭女子大学で日本語教育を教授されていた下田美津子先生など多くの方々の協力を得てこわごわ滑り出しました。

最初は日系南米人の学習支援でした。徐々に留学生や勤労者、国際結婚の配偶者、技能実習生など学習者が増えてきました。

支援者も下田先生の教え子の女子学生、様々な養成講座出身の方々、異文化交流に関心を持った人々と、グループは大きくなってきました。

何事も手探り状態、試行錯誤の繰り返しの中、私を勇気づけて下さったのは、立ち上げからずっと一緒にやってきた佐古田幹子さん（ひろばに飾ってある写真の女性）でした。
彼女の日本語学習支援に対する真摯な姿勢に、私は何度か目を覚まされました。と同時に彼女の明るさ、聡明さ、寛容さはひろばの活動を前進させる大きな力になりました。

ところが２００３年、彼女が病に倒れ帰らぬ人となりました。あまりのショックでひろばを続けていく気持ちが萎えてしまっていました。
しかし、ふんばって活動を続けていくことこそが、彼女の無念さに応えるものだとやがて思えるようになりました。また多くの支援者の方々の協力、熱意に支えられて今日までやってこられました。

「多文化共生」などというおおげさなものではなく、日本語を学びたい人とそのお手伝いをしたい人を結びつけ、双方に快適な環境を提供するのが私の役割だったと思います。

それぞれが「気負わず、気長に、楽しく」をモットーに、こつこつと途切れることなく活動を続けてこられたことには感謝しかありません。

多少気分が落ち込んでいても、学習者の笑顔に励まされ、また頑張ろうという気持ちになったものです。

七夕祭りやバーベキュー、お楽しみ会、日本語スピーチ大会などのイベントをとおして学習者と支援者、支援者同士が楽しく交流できたのは大きな成果でした。

先日、今は引退されている支援者が「あそこは楽しかったなあ」としみじみと話されていたと聞き、ひろばの素晴らしさを再認識し胸が熱くなりました。

数年前から、私たちの活動は兵庫県国際交流協会と共催の「外国人県民の居場所づくり事業」の一環と位置づけられました。外国人というよりは、むしろ私たち支援者の心地よい居場所としてひろばは存在してきたような気がしています。

ご自身の体調不良や家族の事情など厳しい状況をおして支援を続けてこられた方々には本当に頭が下がります。

今後、オンラインでの支援をするという方、他団体での活動を考えている方、学びなおしをしたいなど様々な声が届いています。

ひろばの活動はこれで終わりますが、今までに蒔かれた種がどんな花を咲かせ、実をつけるのか、楽しみにしています。

また、ひろばでのさまざまな経験がきっと皆さんのお役に立つだろうと思います。
皆さん、どうかお元気で、益々のご活躍を。

ひろばの思い出

1999年11月「にほんごひろば岡本」がスタートしました

西村さんと共にひろばを立ち上げられた佐古田幹子さん

初期のころは支援者に対する研修も積極的に行われました
（講師：下田美津子先生）

いつもは楽しいレッスンもコロナ禍ではマスクに仕切り版。

2021年「草の根国際功労賞」を受賞！

ひろばの長年の居場所づくりが認められ、ひょうご国際交流団体連絡協議会から草の根国際功労賞を授与されました。

ありがとう！　「にほんごひろば岡本」

明里　悦子

「にほんごひろば岡本」の思い出は、西村さんの存在感に尽きます。

2011年にKEC日本語学院でのコース修了後，台湾でのシニアボランティア体験出発前に、愛甲学院の西村さんを訪ねて、帰国後の「にほんごひろば岡本」での活動を申し込みました。

「帰国されたら再度来校してください。」との言葉をいただいて、台湾に向かいました。

日本人の男の子が経営している日本語学校で3か月間、ボランティア活動を体験しました。

そこは、渡航前にイメージしていた多文化交流等は全くなく、テキスト文章の重複のくり返しに終始し、「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」を週2回、4年間かかって修了するシステムでした。

あまりの退屈さに飽きた頃、期限切れとなり、ホッとして帰国しました。途中、1ケ月経過した頃から新竹・台北の町内を歩き回ったら、台湾社会の高度な国際交流化におどろかされました。町内で問いかけると、だれでもが話を聞こうとしてくれました。なかなか日本では見慣れない光景でした。

帰国後、西村さんを訪ねたところ、すぐ学習者を紹介していただきました。その後は「にほんごひろば岡本」でいろいろな国の人と自由に学習を楽しませていただきました。
この「学びと交流」を維持された西村さんの御努力に敬服しております。

今でも心に強く残る思い出は、ハルビンから来た李君の事です。
16歳の多感な少年の隣に若いお母さんがドカッと座って、李君に日本語を話す機会を与えないのです。

私が困って、西村さんに相談したところ、西村さんは毅然として李君の学習権を守ってくれました。それから李君は2年間、いろいろな事を日本語だけでいっしょうけんめい語ってくれました。
私は西村さんの「にほんごひろば岡本」に対する信念をしっかりと感じました。
人の集団を率いるというのはこういう事なのだと深く深く感じ入りました。

思い出は尽きないのですが、最後に私事ながら、11年前に私の人生で最も悲しい事が起きたとき、西村さんが「私でできる事ならなんでも言って下さい。」とおっしゃって下さった言葉をいつも心に刻んでおります。今度は私が他人にこの言葉をかけて励ましてあげよう・・・。

西村さん、たいへんお世話になりました。

井畑　眞理子

私にとってのひろばは、支援を始めてから20年近く経った今、生活の一部になっていました。また、姉に会える場所でもありました。

姉（2003年11月30日没）は発足時からお世話になっていましたので、日本語ボランティア教室があることは知っていました。

ある日、姉からNEWS　LETTERを作ってくれないかと言われ、教室に足を運ぶようになりました。支援者の皆さんがなさっていることを見学させてもらったり、原稿を頂戴したりしているうちに、こんな世界があるんだと驚いたり感心したりしていました。

姉を送ってから、西村代表から支援のお誘いを頂きました。できるかどうか不安でしたが、教室の姉の写真を見ながら、叱られないように（笑）頑張ってきました。色々な国の学習者と知り合い、支援のみならず私自身の学習にもなったとても有意義な時間でもありました。

私は彼ら学習者が親元を離れて知らない国に来ていることを忘れないようにして、自分がその立場だったらどんな気持ちだろうということを常に心にとめながら支援をしていました。

姉が活動している期間よりも長くなりましたが、未だに合格点を貰えているか試行錯誤の活動です。

今回、閉鎖ということになり、本当に残念でなりません。私たち支援者がもっと代表を支えることが出来ていたならと悔やまれます。

世の中が大きく変わりつつある今、日本語教室も形を変えている時期です。これからも日本語を学びたい人にどんな形になるか分かりませんが、ひろばで教えていただいたすべてのことを無駄にしないように生活したいと考えています。

ひろばに関わってくださったすべての人にお礼申し上げます。

植附　真由美

N3の文法のテキストに『～を通じて』が出てきます。学習者には「あなたとは、このひろばの西村先生を通じて知り合いました。」と言う例文を示します。直ぐに理解してくれます。
『～のおかげで』の場合は、学習者からは「このひろばのおかげで日本語の勉強ができます。」
と言う例文が。

私は大西勇さん『を通じて』このボランティアに、このひろばにご縁をいただきました。
それは西村佳子さんがひろばを立ち上げてくださった『おかげで』、又先輩支援者の皆さんのご指導の『おかげで』六年間続けることができました。

何人の学習者に出会えたでしょう。皆さん『を通じて』世界が身近になり、皆さんの『おかげで』楽しい時間を過ごすことができました。学習者の一人が「美しい日本語のなかに『～のおかげで』があります。」と言ってくれました。本当に！このボランティアに携わらなければ気がつかなかったかもしれません。

日本や母国で頑張っている皆さんからいつも明るいメールが届きます。幸せなことです。

立ち上げ当時から現在まで《にほんごひろば岡本》に関わってこられた支援者や学習者の皆々様、たいへんお世話になりました。どうぞお元気で。心より感謝申し上げます。

菊池　美智子

にほんごひろば岡本が歴史の幕をとじることになり、誠に残念に思うとともに、これまで支援者として受け入れて下さったことを厚く御礼申し上げます。

私は視覚障害者のための朗読ボランティアの活動をさせていただいていましたが、美しい日本語、正しい日本語を見直したい思いで園田学園の外国人に教えるための日本語講座をうけました。講座終了後に紹介されたのがこのにほんごひろば岡本でした。当初、私のような経験乏しい者も温かく受け入れていただき恐縮したのを覚えています。

教えてみる側に立つと、逆に教わることがたくさんありました。その中で最も大きかったことは、学ぶということは、国籍も性別も年齢も関係なく人が生きていく上で最も大切な糧であるかもしれないということです。

「私は学ぶことが好きなんです」と目を輝かして言われた中国のJさんはいつも生き生きとしておられました。教室では諸先輩の皆様にも本のこと、映画のこと、料理のことなど親しく教えていただいたこと、忘れられません。

今後、淋しいですがこれからも私なりの学び多き老後を過ごしていきたいと思います。

佐々木　五十四

定年退職した男にとって退職後の時間をいかに消化するか大きな問題であった。女性には家事という仕事があるがサラリーマン時代に家事を何もしなかった無骨ものにとって退職後の時間の過ごし方は大きな問題であった。種々考えた末に退職後は　好きなゴルフをすることに加えて日本語を教えることでスタートすると決めました。退職後約1年ALCの日本語教育能力検定試験講座を受講し、修了しました。検定試験は残念ながら合格しなかったが恐る恐る訪問した“にほんごひろば岡本”には受け入れていただきました。

即　学習者を紹介され『日本語を教える』仕事がスタートしました。暖かく迎えていただき最初に韓国人と台湾人の青年が紹介されました。この二人がすばらしい学習者であったのでその後10数年余100人近くの人に日本語を教えるボランティアが続けてこられたと思っています。

当初は教えるということに大いに悩みました。遅々として学習者の日本語力が向上しないのはつらいことでした。先輩から『週1回の学習で語学は進歩しません。学習者が毎回出席してくれるのは満足しているからです』と言われ楽になったのを覚えています。また学習者から『私の拙い日本語で1時間余日本語で相手をしてもらえるのはここしかありません』といわれ自分がしていることに意味があることがわかり満足しました。

このボランティアで得たなによりの利点は自分と社会とのつながりができたことです。退職して社会とのつながりがなくなった無骨な男にとってありがたい場でした。しかも若い人、若い女性と話ができるというのはとてつもない有難い環境でした。又同年配か少し若いボランティアのご婦人方と話ができるというのもうれしい環境でした。

終了した学習者から時々　コンタクトがあるのもうれしいことです。結婚し夫婦で訪ねてくれた学習者、コロナの時にマスクがあるからと送って

くれた中国の女の子、子供ができたと写真を送ってくれたベトナム人、台湾で小籠包をご馳走してくれた台湾人　これらが今も私の財産として残っています。

私の第2の人生を大いに彩ってくれたのがほかでもない“にほんごひろば岡本”です。
設立以来　教室の運営に尽力された　代表者西村佳子様に謹んでお礼申し上げます。
長い間　ほんとうにありがとうございました。

滝口　ともよ

私とにほんごひろばとの出会いはもうコロナ禍が始まっていた時期でした。校舎の玄関にはサーモメーターと消毒液、教室の机にはアクリル板、マスク着用で生徒さんの表情も分からず、不安だらけのスタートでした。

最初の二人の生徒さんはベトナムからの技能実習生でしたが、夜勤があったり残業があったりという仕事をする中で、まだ若くて遊びたい盛りの中で勉強を続けていて素晴らしい生徒さんたちでした。私にとっても初めてベトナム人と関わる経験であり、ベトナム語ネイティブの方々が日本語を話すことが非常に難しいということを実感する時間となりました。

三人目の学生さんは神戸大学への中国からの留学生でした。Sさんはとても勉強熱心で、すでにN1に合格しており、会話はもちろん、日本語の論文のチェックを頼まれるほどほぼ完璧な日本語能力でした。ひろばでの時間は、留学生として日本で生活することの困難なことや彼女のペットの話など日本語の学びというより実践日本語会話でした。いろいろ困難や難しい状況がある中で、自分の研究を深めるために関東の大学を目指したいとSさんから聞いたのもひろばででした。Sさんの猛勉強は報われ、2023年の春に神戸から東京に巣立って行きました。短い期間、また時間でしたが、少しだけでもSさんの支えとなり、励ますことができ、Sさんの新たな出発に立ち会えたことは私にとって幸いでした。

にほんごひろばが作ってくれた人々とのご縁に感謝しています。また長い間、にほんごひろばを運営し、多くの日本語学習者を助け、導いてこられた西村先生はじめボランティアの先生方を尊敬し、心から感謝しております。ありがとうございました。

中安　元博

一足先に退会しながら、このように書くのは気が引けるのですが、「にほんごひろば岡本」が活動を終了するのは、やむを得ないとは思いながらやはり残念です。定年後の10年余りの歳月を、外国人の日本語学習支援活動に参加し使わせて頂いたことに感謝します。

14年近く前のことになりますが、2009年に以前の同僚の湯地さんと一緒に入会しました。しばらくして短期学習者支援の話があり、最初の学習支援をしたのがカナダ人のマルタンさんでした。奥さんがお産で日本に里帰りするのについて日本に来たが、時間があるので日本語を習いたいということでした。日本語の学習もしましたが、日本での経験など雑談に興じながらの短い支援でした。引き続き順番に、インド人のITエンジニアのラグさん、メキシコ人のマルケスさん、ロシア系カザフスタン人のスベトラーナさんの学習支援をし、いろいろな話をしました。

ひろばの活動には学習支援のほかに多数のイベントがあり、またランチや飲み会もあり、時には論じ、勉強し、活動し、雑談し、楽しい時間を過ごさせて頂きました。ボランティア活動をするのは初めてでしたが、やはり人の役に立つことをしているという意識はいいもので、清々しい気持ちになりました。ひろばの目的の一つに外国人の居場所づくりがありますが、学習者もひろばに来るのを楽しみにしていて、その役割を十分果たしていました。居場所という意味では、人とのかかわりが少なくなってきた私にとっても、貴重な居場所になりました。

学習者はアジアの人が多かったですが、欧米も含めいろんな国から来ていました。実際にひろばでそれらの国の人と話をすると、考え方や感じ方、行動などに大きな違いはなく、人間はみんな同じだと改めて認識しました。

外国人に日本語を教えることは、思いのほか難しいことに気付きました。例えば同じような意味の言葉が多数あり、それらがどう違うかうまく説明できないことがあり、自分がそれほど深くまでは日本語を分かっていないと自覚させられました。

ひろばの学習者は若い方が多く、一方支援者は多くが年配の方です。そのため支援者には私と同年代の方も多く、一緒に話をすると話が弾みました。

ひろばのホームページを担当していた方がサ

ポートできなくなり、引き継いで担当しました。しばらくして使っていたフリーのサイトが閉鎖になり、他のフリーのサイトに引っ越しましたが、その後個人で使っているサイトに再度引っ越しました。

学習者の話に戻りますと、引き続きイギリス人のジョッシュさん、中国人の胡さん、ミャンマー人のチョーサンリンさんの学習支援をしました。チョーサンリンさんは問題集をスイスイと解いてN2を取り、2021年夏にN1に合格しました。N1合格者はひろばでは初めてと聞きました。

昨年、後期高齢者の仲間入りをし、体力、気力が衰えてきたので退会させて頂きました。重なりますが外国人日本語学習支援活動に参加させて頂いたことに感謝するとともに、皆様のこれからのご健勝とご多幸をお祈りします。

橋本　桂子

私がにほんごひろばでボランティアを始めたきっかけは、当時「あしやにほんごがっきゅう」でボランティア活動をご一緒していた先輩の故佐古田幹子さんからの一本のお電話でした。その内容は、「友人の西村佳子さんが「にほんごひろば岡本」を設立されたのでお手伝いして頂けませんか？」というお誘いでした。

1999年12月、初めて佐古田さんのご紹介で西村代表にお会いしました。その時、私を笑顔で迎えてくださった西村代表から、立ち上げたばかりの「にほんごひろば岡本」の今後の運営についての熱い思い、活動方針など色々お話をお聞きし、私でもお手伝い出来るのならと登録させて頂きました。あれから23年半、設立当初からのメンバーは私だけと聞き、驚くと共に感慨深い気持ちでいっぱいになりました。

自分にとってこの23年半という時間は瞬く間に過ぎた時間のように思えますが、当時、小学生の娘と息子の母親だった私が、今では孫の世話に追われているのですから、時間の長さというものを痛感しております。

支援させて頂いた学習者、一人一人、それぞれの学習者との出会いは私にとってはかけがいのないものでした。その中でも印象に残っているのは、一番長く支援させて頂いたP&Gで研究開発をされていたタイ人のシリポーンさんです。彼女とはP&Gの本社がシンガポールに移転するまでの7年間、日本語学習に留まらず一緒に京都に遊びに行ったり、娘を交えてランチしたり、我家にタイカレーを持って遊びに来てくださったりプライベートなお付き合いもさせて頂き、シンガポールに行かれてからも、タイのご家族と旅行に来られたり、出張でP&Gの滋賀の工場に来られた時などは連絡があり一緒に食事をしたりしています。

彼女もコロナ禍で長く離れて暮らしているご両親が心配でP&Gを退職してタイに戻られたそうです。

私には好きな言葉があります。

「気負わず、気長に、楽しく」

設立当初から西村代表がニュースレターの巻頭でずっと書かれていた言葉です。

私はこの言葉にどれだけ励まされたかわかりません。これからもこの言葉をモットーに日本語支援を続けていきたい思っております。日本語支援が私の人生に彩りを与えてくれているのは間違いありません。

最後になりましたが、私ににほんごひろばを紹介してくださった佐古田幹子さん、そして23年半もの長い間、途切れる事なく私にボランティアの機会を与えてくださった西村佳子さんには、心より感謝しております。
本当にありがとうございました。

宮武　寿美雄

私は2004年9月に、にほんごひろばに参加させて頂きました。

在職中は広報の仕事をしており、パンフレットなども作成していたので日本語を教えることなら何とかなるだろうという軽い気持ちでした（今思えばほんと浅はかでした）。

ところが最初の生徒のタンさん（ベトナム人）の最初のレッスンで日本語文法について質問され、私は思わず「えっ、日本語にも文法があるのか！」とショックを受けました。

それがきっかけで後日、サンクスの日本語講座を受講、私自身の日本語学習も始まりました。
以来、日本語は教える前にまず自分自身が学習しなければという気持ちが芽生えたのが（実践はできた？）私にとっては一番良かったのかも知れません。

ひろばに来た当初は「教えなければ！」という気持ちが強く、自分が教えたいことを優先的に教えていましたが、そうではなく生徒が本当に学びたいことを理解してそれをサポートすることが私の務めだということもだんだん分かってきました。

生徒に「日本語の学習は楽しいものだ」と思って貰えることをモットーにやってきました。
私はそれぞれの生徒ごとにノート(と言っても簡単なメモですが)をとっていたのですが、いまもそのノートが全て残っており時々読み返しています。その都度、生徒さんの顔が浮かびとても懐かしい私の財産です。

また、ひろばではレッスンだけではなく、七夕、BBQ,お楽しみ会などのイベントの企画や準備なども担当させて頂きました。私にとってこれはとても楽しいものでした。

これらイベントには多くの皆さまのご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。
あっという間の19年でしたが、退職後の私の人生にとってひろばは無くてはならない「居場所」でした。本当に楽しい貴重な時間を過ごさせて頂きました。

西村さんを始め、支援者の皆さん、さらに生徒の皆さんに心より感謝いたします。

安野　信行

私は60歳すぎからいくつかの日本語教室でボランティアをしましたが、10年前に65歳でリタイアして神戸のKICCで1年間サポーターをした後「にほんごひろば岡本」に出会い、10年近く楽しい時間をいただきました。

もともと言葉や語学に興味があったので、異なる文化や考えを持つ生徒たちと触れ合うことは、ボランティアというより楽しい時間でした。それまでの日本語教室と違って、生徒さんとのレッスンやイベントでの交流だけでなく、共に活動するサポーターの皆さんとの折々の交流も楽しいものでした。

ここ2年ほど、コロナの影響で教室へ足を運ぶことが難しくなりましたが、あらためて今までに出会った生徒さんのことを思い出します。韓国や中国の留学生たち、中国のビジネスマン、ベトナムの海外研修生の女の子たち。その他にもロシア、台湾、ネパール、イタリアなどいろんな生徒さんに出会いました。正式な資格もない自己流の教え方でどれくらい生徒さんのお役に立てたかは今でも心許ない限りですが、能力試験に合格したり帰国後に母国で日本語の先生をしている生徒さんもいるので、少しはお役に立てたのかなと思います。

「にほんごひろば岡本」がサポーターの高齢化で幕を閉じることは寂しい限りですが、今までこの「場」を支え続けていただいた西村さんをはじめとして、宮武さんやご尽力いただいた皆様にあらためて感謝いたします。「にほんごひろば岡本OB会」みたいな機会が今後もたまにあればと思っています。

心からの感謝を込めて、本当にありがとうございました！

ありがとう！　「にほんごひろば岡本」　素敵な居場所！